医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

風だより

2026.01
vol.114
新春号

友朋会理念『患者さんのために』



病院入口　門松／元旦行事食（おせち料理）

contents

2 理事長年頭挨拶
3 各部署長年頭挨拶及び抱負
4 冨永ボンドさんワークショップ
5 朋寿苑だより
6 女性活躍推進事業（院内研修会）
7 孝心の里夜間避難訓練／おれんじカフェ
8 友朋会指針、外来予定表

謹賀新年

2026年頭のご挨拶

理事長　中川　龍治

皆様、明けましておめでとうございます。

令和7年（2025年）10月21日に、高市早苗氏が内閣総理大臣に任命され、日本で初めてとなる女性首相が誕生しました。高市総理が就任後、直ちに補正予算にて、「医療・介護等支援パッケージ」が計上され、国会にて承認されました。総裁選での公約が、スピード感をもって、実現されました。令和7年度、医療機関の約70％が赤字ではないかと言われる中、高市総理の実行力は、我々の大きな「希望の光」となった感があります。また、令和8年度の診療報酬改定では、日本精神科病院協会、日本医師会など医療関係の各種団体が診療報酬の真水の引き上げを要望していました。大幅な引き上げは断固阻止しようとする官僚に対しても、日本の医療の窮状に対する理解を引き出してもらいたいものです。（速報では、診療報酬改定は3.09％増、介護報酬改定は2.03％増となり、3％以上のプラス改定は30年ぶりとのこと）

当院においても、一昨年から極めて厳しい経営状況となり、令和7年12月には福岡の「ものわすれメンタルクリニック」の介護事業を廃止しました。退職された職員の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、ご理解をいただきましたことを心より感謝申し上げます。皆さんの想いを胸に、我々は質の高い友朋会の医療・介護・福祉を患者さん、利用者の皆さんに届け続けていくことを誓います。

今年の指針です。



2026年（令和8年）友朋会の指針『底　力』

令和8年は、「友朋会の底力」を発揮して、経営的に本来の力を取り戻す年にしたいと思います。では、「友朋会の底力」とは、何でしょうか？

それは、大きさです。数です。

友朋会には、現在、約700名弱の職員さんがいます。突拍子もない話ですが、石を集めるために、職員さんに一人1KGの石を持ってきてもらったとします。700名として、700KG、0.7トンです。もし、一人10KG、頑張って持ってきてもらったら、7000KG、7トンというとてつもない量になります。私は、このような話を、以前、良くしていました。友朋会は一丸となることで、もの凄い力を発揮できるポテンシャルを秘めています。そのことをあらためて認識し、『本年は「底力」を発揮すべき時である』と職員の皆さんとともに決意を新たにしたいと思います。「底力」を発揮するということは、我々にとっては難しいことではないと信じます。患者さんのために、一歩前に出る、もう一歩寄り添う、一つやるべきことを増やす等を全員で、一つ一つ、毎日積み重ねていくことだと思います。小さなことからコツコツと、お笑い芸人さんの言葉ではありますが、この精神で、友朋会の力を結集できれば、「底力」を発揮できると信じます。

この一年、我々友朋会職員一同は、誠意をもって真摯に、研ぎ澄まされた一人一人がひとつとなり、どんな小さなことでもひとつずつ根気強く積み重ね、前を向いて、しっかりと精進していきます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

各部署長年頭挨拶及び抱負

新しい年に沢山の幸せが訪れますように
本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

嬉野温泉病院　精神科

副院長　冨松　眞之

医療はますます厳しい環境下にありますが、私たちは「人とのこころの通い合い」をいつも考えながら、職員一同、地域の皆様に信頼される精神医療を一層充実させて参りたいと思います。今年もいい年でありますように。

嬉野温泉病院　内科

副院長　竹下　吉明

国の医療支援や診療報酬改定により明るい一年になることを期待し、さらに良い医療と福祉を提供できるように、さらに丁寧に取り組んでいきましょう。今年もよろしくお願いします。



介護老人保健施設　朋寿苑

施設長　林原　歳久

今年は60年に1度の丙午の年。丙午の「火」と「午」の強力なエネルギーに乗っかり、昨年のワールドシリーズ第7戦のドジャーズのように総力一丸、最後は皆で笑って過ごせる良い一年としたいと思います。

ものわすれメンタルクリニック

院長　芹川　佳代子

今年から福岡のクリニックは外来診療のみとなります。これまで以上に診療に集中し、ホスピタリティ豊かなクリニックを目指します。
今年もどうぞよろしくお願い致します。

友朋会

法人事務局長　末永　憲博

医療業界は非常に厳しい真っただ中ですが、今年の診療報酬改定で、少しは良い方向になってくれることを期待しております。
我々としては、いつもの通りに患者さんのために一生懸命、頑張っていくのみです。
今年も皆さん頑張りましょう。

看護部

部長　松尾　智子

昨年は、創立60周年を迎え気持ちも新たに、多くのことに取り組もうと意欲的に動いた年でもありました。病院でも少しずつ変化があったように、皆さんの周りでも変化が起こりましたでしょうか。
今年は、さらに前に進み、成果を上げられるように、皆さんと力を合わせて、干支である馬のように、軽やかに駆け抜けてまいりましょう。

デイケアで冨永ボンドさんのアートワークショップを開催しました

精神科デイケア　石橋　亮祐

令和7年12月22日、精神科デイケアに、画家の冨永ボンドさんが来てくださいました。

ボンドさんは、木工用ボンドを使って描く世界で唯一の「ボンドアート」という独自のスタイルを確立されたアーティストです。「アートで繋ぐ（BOND）」をテーマに、ライブペイントや医療・福祉の現場でのワークショップなど、世界中で幅広く活動されています。そんな素敵なゲストを間近に迎え、利用者さん37名とスタッフ6名で、アート体験に挑戦しました。

最初は「どう書き始めたらよかろうか」「失敗したらどうしよう」と不安そうな利用者さんも多かったのですが、ボンドさんの「アートに失敗はありません」という言葉に、緊張もほぐれて少しずつ筆が動き始めました。

ボンドアートは、最初に好きな色で好きな絵や模様を描き、色と色の境目を木工用ボンドと黒い絵の具を混ぜたもので輪郭を描く手法です。ボンド特有のツヤツヤした黒い線を引きながら「この色、綺麗かね」「なんか上手にみえてきた」「面白か」などの感想が聞かれ、あっという間に時間が過ぎていきました。

ボンドさんと笑顔でお話ししたり、アドバイスをもらったり。プロのアーティストの方と同じテーブルで作品を作る体験は、利用者さんにとってもスタッフにとっても思い出に残る刺激的な体験となりました。

出来上がった作品は、元気でカラフルなものから、しっとりと落ち着いた色合いのもの、中にはダークな世界観のものまで、どれも利用者さんの個性が出た素晴らしいものでした。自分の作品を手にしながら「写真撮って」とボンドさんと記念撮影をする利用者さんもおられました。

冨永ボンドさん、素敵な時間を本当にありがとうございました。今回は一人ひとりの個人制作でしたが、来年度もワークショップの開催を計画しています。次回はみんなの力を合わせて、さらに大きな「共同作品」に挑戦していただく予定です。どんな大作が出来上がるのか今から楽しみです。

利用者さん37名と
スタッフ6名で、
アート体験に挑戦しました。







Hojuen News

介護老人保健施設

朋寿苑

TEL 0954-42-2900・FAX 0954-42-2907



医療法人財団 友朋会の介護老人保健施設 朋寿苑では、
家庭的な雰囲気と利用者さまの個性尊重を第一に
きめ細かなケアプランにそった介護と多彩な生活機能訓練によって、
家庭復帰を目指しています。朋寿苑は、毎月様々な行事を開催しており、
ここでは令和7年9月～10月に開催しました行事をご紹介します。

Hojuen News

入所部門

ミニ運動を開催しました！

10月15日にミニ運動会がありました。スポーツの秋ということで紅組と白組に分かれ、玉入れや風船渡しリレー、じゃんけんリレーを行いました。運動会の雰囲気を出すため、入所者様に赤白帽子を被って頂きましたが、「恥ずかしい」と言いながらも、皆さん学生に戻った気分で楽しまれていました。「頑張れー！」と声援を送られ、拍手をして喜ぶなど笑顔が多く見られていました。





敬老会を開催しました！

9月18日に「敬老会」を開催し、ささやかではありますが入所者様の健康と長寿をお祝いしました。職員による東京ブギウギダンス、ミャンマー出身の職員による民族舞踊を披露し、色鮮やかな衣装と音楽に合わせた踊りに普段とは違った雰囲気の中、笑顔や拍手に包まれ、楽しい時間をお過ごしいただいたと思います。また、職員手作りのお守りをお一人おひとりお渡しし、大変喜んでいただきました。





Hojuen News

通所部門

焼き芋会を開催しました！

10月の行事は数年ぶりに焼き芋会を開催しました。始めに、新聞紙に包んださつま芋を水に浸し、それをアルミホイルで包む下準備の工程を、利用者様と一緒に行いました。天候に恵まれ外で焼き芋を実食しました。少し肌寒さを感じたものの、炭火でじっくりと焼き上げたほくほくのさつま芋を頬張りながら、「久しぶりに焼き芋食べたよ」「甘くておいしい」と笑顔があふれました。秋の味覚を楽しみながら、外の空気に触れ、懐かしい思い出話にも花が咲きました。





敬老会を開催しました！

今年度の敬老会の表彰は、一人ずつ前に出てきていただき、表彰状と記念品を贈呈させていただきました。周囲の利用者様からも大きな拍手が送られ、これまでの人生を讃える温かい時間となりました。表彰式の後は職員による出し物として「長生き音頭」を披露し、軽快な音楽に合わせた踊りを見ながら利用者様からは笑い声や拍手が絶えませんでした。職員と一緒に体を動かして楽しむ方もおられ、会場全体が一体感に包まれました。





令和7年度 女性 活躍推進研修会 開催

課長会 女性活躍推進担当 南 修平

令和7年10月4日(土)、昨年度に引き続き、役職者を対象とした女性活躍推進の研修会を実施しました。今回のテーマは『役職者になりたいと思える環境を作っていくためには?』というタイトルで、女性だけでなく男性も含め、これからの世代の職員が役職者になりたいと思える環境をどのように作っていくかという観点から設定しました。

研修会には、課長師長職以下の役職者57名が参加し、まずは女性活躍推進における課題の共有のための講義を実施しました。その中では、現在、政府内でも議論に挙がっている、アンコンシャスバイアス(潜在的バイアス)や女性特有のヘルス・リテラシー※1、女性特有の健康課題による社会全体の経済的損失などの話題を共有し、日本における女性管理職者の割合と友朋会との比較に関する情報を共有しました。

その後のグループディスカッションでは、参加者が各グループに分かれて、友朋会において次の世代の職員が役職者になりたいと思える環境を作るための課題や対策に関して真剣に、時には笑顔も交えながら話し合う場面が見られました。議論の後は各グループからの発表があり、参加者が主体となって話し合いをしていたことがよく分かりました。


グループディスカッションの様子

以下、各グループで検討し、発表された内容の一部です。

- 役職者がまずロールモデルとなり、活気を持つことが大切ではないか。
- 入職時研修で「役職者になりたいと思える環境」を作っていくことも必要。
- 現代社会の特徴を反映して正当に評価していくシステムが必要。
- スタッフが達成感を味わえるイベントや機会が少なくなった影響も大きい。
- 女性に対しての家庭内の理解、親の介護などの課題についてのサポートも必要。
- 上司にあたる役職者自身の価値観を変えていく必要がある。


男女を隔てずに様々な意見が出されました

皆、前向きに意見を出していることが分かります。参加者個人へのアンケートでは、「女性の健康や体に関する十分な支援がきちんとなされているかを、役職者自身が振り返り、考えていく事が働きやすい環境づくりに繋がることを再認識しました」や「他部署の役職者と話を共有することで、自分自身の振り返りになってとても有意義でした」などの意見がありました。今後も課長会の女性活躍推進グループで、より良い企画を考えていこうと思います。


各グループの発表の様子

※1 ヘルス・リテラシーとは、健康面での適切な意思決定に必要な、基本的健康情報やサービスを調べ、得て、理解し、効果的に利用する個人的能力の程度を意味します。

小規模多機能ホーム 孝心の里

TEL 0954-43-7550・FAX 0954-43-7551

小規模多機能ホーム孝心の里では、住み慣れた家、地域で安心して生活ができるように、
必要に応じて「通所」「宿泊」「訪問」のサービスを組み合わせて利用できる在宅サービスです。

令和7年度夜間避難訓練実施について震災後に火災発生を想定した夜間避難訓練を毎年実施していますが、今年は10月24日（金）に行いました。

初期消火訓練

模擬の出火を設定し消火器操作訓練を行いました。「火元に近づきすぎない」「自分の避難経路を背にして使用する」などの注意点を確認しながら実施しました。





模擬利用者での避難誘導

押し車歩行や車椅子利用など模擬利用者を設定し「大丈夫ですよ。ゆっくりと行きます」など、安心して避難できるように声を掛けながら適切な動きで実施する事ができました。





終了後反省会

友朋会からの応援参加者や防火防災委員を含めて反省会を行い「毎年訓練を実施されており的確な行動でスムーズな動きだった」とのコメントを頂く事ができました。





今後も訓練を継続する事で、より安全で安心して利用できる事業所を目指して行きます。

おれんじカフェ「ゆ～とアート」を開催して



毎月第一土曜日の14時より開催しています。

奇数月は認知症に関心がある方ならどなたでも参加できる認知症予防カフェ

偶数月は認知症の当事者やご家族（介護者）に限定した認知症カフェとなっています。



令和7年12月6日は、認知症の当事者、ご家族（介護者）に限定した認知症カフェを開催しました。参加者は19名で今回の活動は、門松作りと座談会とクリスマス会を行いました。

当事者の方には、門松作りに挑戦していただき、立派な門松が完成しました。

ご家族(介護者)の方は座談会を行いました。関わり方に苦労した経験、工夫してきたこと、今後の不安など同じような立場の方の話を聞くことで、共感し合える場面も多く参加者にとってもスタッフにとっても有意義な時間を過ごすことが出来ました。会が進むと参加者同士の会話も増え自発的に意見交換をされる場面もあり、学びの場やストレス発散の場として活用していただけたようです。

クリスマス会では、職員によるトーンチャイムやハンドベルの演奏で合唱を行いました。

あっという間の2時間で参加者のみなさんと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

予約制（先着順）となりますので、参加をご希望の方はご連絡ください。

お問い合わせ・お申込み先　TEL 0954 - 43 - 0003（平日9:00 ～ 17:00）　認知症疾患医療センター　廣瀬千鶴